

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年1月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0174700815		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホーム広尾ふれあい館1・2		
所在地	〒089-2446 広尾郡広尾町字紋別1 9線4 9-1 7 (電 話) 01558-9-5022		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年11月30日	評価確定日	平成22年1月5日

【情報提供票より】(平成21年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 3月31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤	12人、非常勤 5人、常勤換算 7.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2階建ての	1～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	20,000～25,300 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 1,000 円
	または1日当たり		700 円

(4) 利用者の概要(11月30日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	5名	要介護2	5名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 85歳	最低	74歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	広尾町国民健康保険病院、なかの歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、広尾町郊外の一角にある。「人間としての尊厳を失わず、家庭的な環境のもとで暮らす」という理念を全職員が共有して、実践に取り組んでいる。地域住民は事業所の除雪などを手伝い、利用者が徘徊した場合、住民が通報するなど地域ぐるみで支えている。利用者は、互いの居室を訪ね、気の合う者同士がおしゃべりをする等、支えあいながら、穏やかに暮らしている。職員は気軽に立ち寄れる雰囲気づくりに努めており、ほとんどの家族が来訪している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題の「地域との付き合い」「職員を育てる取り組み」「同業者との交流」については、町内会に加入し、地域住民が除雪等のボランティアを行うなど交流を図った。また、法人内外の研修に積極的に参加したり、地域のデイサービス事業所と交流して業務を見直す機会とするなど、日々のケアに活かし、それぞれ改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、職員会議で協議して管理者が取りまとめている。全職員が自己評価に取り組むことで振り返りにつながり日々のケアに役立っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議2ヶ月に1回開催し、住民代表、地域包括支援センター職員、家族代表、職員代表で構成している。会議では事業所の自己及び外部評価、行事案内、ヒヤリハット事例、利用者の生活状況などを報告し、意見や助言を得て会議録に記録し、運営に役立っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口の表示は事業所の見やすいところに掲示し、担当者を決め、家族の意見や苦情相談について迅速に対応し、来訪時も気軽に相談できる雰囲気づくりに努めている。また、苦情相談窓口が広尾町福祉保険係、道国民健康保険団体連合会にもあることを周知している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営者が地元出身者であって、地域住民との馴染みの関係ができており、挨拶を交わしたり、町の老人会や保育所での発表会、お遊戯会に参加している。また、事業所内の除雪などにボランティアの参加があり地域との連携を密に図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳を失わず、地域の一人として家庭的な環境の中でその人らしい豊かな生活ができることを支援する」という独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はスタッフ会議等で常に振り返りを行い、全職員が共有し、理念の実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。また、運営者の出身地でもあることから、地域住民とも顔馴染みの関係ができており、散歩、買い物などで言えば日常的に挨拶を交わしている。さらに、地域の老人会、保育所とも交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組んで協議し管理者が取りまとめている。全職員が取り組むことで、振り返りにつながり日々のケアに役立っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、住民代表、地域包括支援センター職員、家族代表、職員代表で構成している。会議では事業所の自己及び外部評価、行事案内、ヒヤリハット事例、利用者の生活状況などを報告し、意見や助言を得て会議録に記録し、運営に役立てている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の介護保険担当者や福祉担当者から必要に応じ助言を得るなど交流を図っており、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりに担当職員を配置し、月に1回、日ごろの生活状況を手書きしたものを金銭出納帳のコピーと一緒に、来訪時に手渡したり、郵送で家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に相談や意見を述べやすい雰囲気づくりに努めており、出された意見等には迅速に対応している。また、事業所内に苦情相談窓口を設けたり、町福祉保険課、道国民健康保険団体連合会に苦情相談窓口があることを家族に知らせてある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどないが、異動がある場合は全職員で利用者に対して気を配り、できるだけダメージを与えないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、法人内の職員研修計画による研修や、外部研修に積極的に参加するために勤務調整を図っている。また、職員の資格取得を応援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広尾町のデイサービスセンターと交流を図り、全職員が交替で派遣研修に参加しており、サービスの質の向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は概ね地元出身で馴染みの関係ができているが、家族、管理者、介護支援専門員が話し合い、無理強いせず、利用者がゆっくり事業所に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりの中から一人ひとりの思いを把握し介護プランも取り入れながら、寄り添い、昔話を聞くなど、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや生活歴から思いを把握し、本人の意向をできるだけかなえるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランの長期目標をたて、1ヶ月経過した後にモニタリングし利用者や家族から希望を聞き、担当職員、介護支援専門員で話し合いを重ね介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直し、変化が生じた場合は利用者や家族、関係者と話し合い、その都度見直し、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の買い物、知人宅訪問、通院送迎、レクリエーションなど、柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する病院の受診を優先している。また、事業所のかかりつけ医との関係も大切にしながら、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けた話し合いは早い段階から利用者や家族、関係者と話し合い、マニュアルも作成し、全職員で方針を共有している。終末期はかかりつけ医の指示に従うことになるが、事業所での看取りは行っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に人生の先輩として気を配り、一人ひとりのプライドやプライバシーを損ねることのない言葉かけや対応をしている。なお、記録は事務所以外に持ち出すことはしていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所や職員側の都合に合わせることなく、利用者の思いに沿い一人ひとり、日々ゆったり暮らせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は法人で定めている献立だが、週2日は事業所独自で利用者の希望を聞いてメニューを決め、買い物をする。また、準備や後片付けなど、できるだけ楽しみながら利用者が関わり、食事が楽しみなものになるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回を基本としているが、毎日入浴することも可能である。また、職員の異動もなく馴染みの関係ができていたので、利用者はほとんど入浴を拒否することがない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、食事の準備や後片付けなどを日課として手伝い、励みになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、週2回の買い物を楽しみしている。また、天気の良い日は散歩し、知人宅を訪問している。冬期間は日光浴を心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間のみ施錠している。施錠することがあれば事前に家族に説明し、了解を得るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受け年2回通報訓練、消火訓練、避難誘導訓練等の消防訓練を実施しており、住民の協力も得ている。	○	事業所は屋外渡り廊下を挟んで2棟あり、消防訓練は別々に実施しているが、中期的に合同の消防訓練を実施し、連携して対応することが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分摂取量を把握し、検食簿に記録し、支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は家庭的で適度な広さがあり、廊下は幅広く、共有スペースは天井が高く明るい部屋となっている。台所と食堂が一体化しており、料理する音や匂いを感じながら生活感を味わっている。また、季節感を取り入れた飾り付けをするなど、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室にトイレがあり、南向きで明るく日当たりが良い。また、仏壇や使い慣れた家具を持ち込み、家族の写真を飾り落ち着いた雰囲気やゆったりと過ごしている。		

※ は、重点項目。